

越教組ニュース

保育でも少人数教育を進めよう

少人数数学教習名を提出

二月十八日、「越谷市にも三〇人学級の実現を」の署名を教育委員会に届けました。今年度は、コロナ禍の下、昨年度とほぼ同じ約五〇〇筆を集めての提出となりました。保護者二名、越教組七名、市教委からは学校教育部長課長はじめ四名が出席しました。



保護者 Aさん
日本は教育にお金をかけない国だが、密を避けるためにも是非少

市教委 (学校教育部長)
以前は臨探希望者が多く越谷市教委が他市町を紹介することがありましたが、

小でも35人学級?

埼玉県では、学校判断で教科指導充実加配を弾力的に運用して3年生を35人学級としておよびという通知を出しました。地教委ごとでなく、学校ごとで選択できるのがポイントです。実際、吉川市・川口市・桶川

市・行田市・富士見市・入間市・鴻巣市などは、学校として35人学級を選択した例が報告されています。いづれも、職員の話し合い、合意を進めています。

越教組は市教委に対して対象校が35人学級を選択した場合にはその選択を尊重するよう申し入れしました。しかし市教委は、「対象校の教室、エアコン等の施設、大型テレビやタブレットの配置等を鑑み検討した結果、来年度の実施には準備期間が限られていることや新たな加配が見込めないことから実施しない方向を進めている」と回答。しかし、どの学校がどのような準備が整わないのかは明らかにしませんでした。もちろん対象校への意向の確認などは行っていません。

本校の現状を踏まえて 本場に準備が整わないので弾力的運用ができないというのは何校あったのでしょうか。さらに、加配が来ないことを実施しない理由に上げたことは重大です。この理由からは来年度以降も、物理的に準備ができて加配がなければ越谷市は実施しないということになってしまいます。確かに代替が来ない現実がある中で、少人数指導加配教員を配置しておきたいというのは分かります。しかし、野球だけが選手がいなくても8人で守れというに等しいこの代替制度を正していくことが本場ではない

越谷市教職員組合 ホームページ

越谷の3学園構想にも驚きましたが、さいたま市の義務教育学校案には開いた口が塞がりませぬ。この武蔵浦和学園が実現すれば三千人規模の国内最大の義務教育学校となります。越谷市の場合と同様、マンションの建設フッシュで増加傾向にある児童・生徒数への対応が主な要因なようです。これに小中一貫教育を上乘せしています。新年度以降、地元住民や保護者らを対象として

た説明会や意見交換の場を設けて義務教育学校の是非について話し合い、方向性を探るとしています。同意が得られた場合でも、開校は早くとも5年後以降の予定となっています。統合する小中の児童・生徒数は、沼影小1089人、浦和大里小827人、内谷中969人。今でさえ大規模校または過大規模校です。武蔵浦和駅周辺はマンション開発が続いており、6年後浦和大里小では200人近く増え、内谷中も今と同じ程度という見通し。今後、現在の3校の敷地

を拠点にした施設分離型の学園型構想が実現可能かどうか、住民らと話し合いを進めていくとしています。計画自体はとんでもないものですが、住民らと話し合っていくという姿勢は当然とはいえ、評価できません。つくば市は小中一貫教育学校づくりを反省し、今後新たに作らないとしています。先例に学び、子ども達を第一に考えた選択をしてほしいものです。